

■米国：環境保護局長官スコット・プルーイト氏が辞任

環境保護局（EPA）のスコット・プルーイト長官が2018年7月5日、辞任した。トランプ大統領が自身のツイッターで、プルーイト氏の辞任届を受理したことを明らかにした。プルーイト氏を巡っては、エネルギー関連のロビイストから格安でマンションを借りるなど、数々の倫理規定抵触の疑いが浮上していた。同氏は、トランプ氏のパリ協定離脱決定を強く支持したことで知られる。プルーイト氏は辞任の理由について、自身と家族への執拗な批判を挙げている。長官代理には現在のEPA副長官で、以前は石炭業界のロビイストであったアンドリュー・ウィーラー氏が就く予定である。同氏はインタビューに答え、「気候変動は現実であり、人間が気候に影響を与えていると信じている」と述べた。